

別紙 1 - 1

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	甲	第	号
------	---	---	---	---

氏 名 松井 智子

論 文 題 目

Professional identity formation of female doctors in Japan – gap
between the married and unmarried

(日本の女性医師のプロフェッショナル・アイデンティティ形成
- 既婚女性医師と未婚女性医師の間の溝)

論文審査担当者

名古屋大学教授

主 査 委員

葛谷 雅文



名古屋大学教授

委員

濱嶋 信之



名古屋大学教授

委員

木 村 宏



名古屋大学教授

指導教授

錦織 宏



論文審査の結果の要旨

今回、質的研究手法を用いて日本の女性医師が結婚・出産をとおしてパーソナル・アイデンティティ及びプロフェッショナル・アイデンティティが形成される過程には、ジェンダー・ステレオタイプが強く影響していたことが示された。さらに未婚女性医師と既婚女性医師の間には、医師であるというアイデンティティを重視する価値観と妻・母であることを重視する価値観により生じる婚姻状態に依存した溝が存在していた。既存の価値観による 2 項対立の構造がマイノリティ意識を生じさせていることが両者の溝の背景と考えられ、今後は固定観念にしばられず、多様なプロフェッショナル・アイデンティティの形成を許容することを目指した文化や労働環境を創造していくことが必要であることが示唆された。





本研究に対し、以下の点を議論した。

1. 今回の研究結果からは、ジェンダー・ステレオタイプが女性医師のプロフェッショナル・アイデンティティ形成に大きな影響を与えているということが示された。これは女性のジェンダー・ステレオタイプと、医師であるというアイデンティティを重視することとの間にギャップが大きく、そのことが彼女達に問題意識を与えていると考えられた。逆に男性は、医師であることを重視する価値観と「男性は仕事」というジェンダー・ステレオタイプの間にはギャップが小さいものと推測され、男性医師は女性医師ほどの葛藤を抱えることは少なく、無意識のうちにアイデンティティ形成が進んでいる可能性があると考えられる。
2. 本研究では婚姻状態、子どもの有無、専門科、医師経験年数について参加者の背景要因としての属性を提示した。その他、アイデンティティ形成に関わる背景要因としては、育児サポート（公的/私的）の有無や、配偶者の勤務状況、セクシャリティ、結婚願望の有無、育児希望の有無などは本研究結果を左右する要素であると考えられる。本研究は結婚と出産・育児を一括りにして考える文化的背景のある日本で行われており、既婚で子どもがいない女性医師のアイデンティティ形成についての考察が不足しており、この点が本研究の限界であると考えられる。
3. 分析結果については研究チームのメンバー（女性医師 1 名、男性医師 2 名、臨床心理士 1 名）で分析のプロセスをお互いに検証している。本研究は認識論的立場として構成主義の立場をとっており、本研究は女性医師のプロフェッショナル・アイデンティティの形成について新奇的で独自性のある一つの見方を提示できていると考えられる。

本研究は日本の女性医師のプロフェッショナル・アイデンティティ形成について重要な知見を提供した。

以上の理由により、本研究は博士（医学）の学位を授与するにふさわしい価値を有するものと評価した。

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第	号	氏 名	松井 智子
試験担当者	主査	葛谷 雅文 	副査 ₁	濱嶋 信之 
	副査 ₂	木下 実 	指導教授	錦織 宏 
(試験の結果の要旨)				
<p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 女性医師と男性医師のプロフェッショナル・アイデンティティ形成の違いについて 2. 女性医師のプロフェッショナル・アイデンティティの形成に関わる女性医師の背景要因について 3. 質的研究手法の客観性の担保について <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、総合診療医学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p>				